

三重県中学校ソフトテニス大会参加規定

この大会参加規定は三重県内の中学生が参加する県内すべてのソフトテニス大会に適用されるものとする。また、各地区の大会においては、特別に規定を定めることができる。

1. 参加資格

- (1)選手は、三重県ソフトテニス連盟およびその下部組織の主催大会においては(公財)日本ソフトテニス連盟に会員登録をした中学生で、保護者が参加を承諾した者とする。(会員登録をしていない中学生が参加する場合は、参加料を1.5倍とする。)また、三重県中学校体育連盟およびその下部組織の主催大会においては三重県中学校体育連盟加盟の中学校に在籍する生徒で、校長が参加を認めた者とする。
- (2)団体戦は、男女とも同一校の選手4名以上8名以内と監督1名で構成する。4名での参加の場合は、3対戦目をいずれの場合も行わない。
- (3)個人戦は、男女とも同一校の選手2名と監督1名で構成する。
部員が1名の時に限り、救済処置として複数校での合同ペアを認める。
ただし同地区内とする。
- (4)個人情報の取り扱い(利用目的)
大会の主催者は、個人情報保護に関する法令を遵守し、取得する個人情報について適正に取り扱う。
また、取得した個人情報は、競技大会の資格審査・競技大会運営上必要なプログラム編成および作成・ホームページ・掲示板・報道発表等、その他競技運営および競技に必要な連絡等に利用する。

2. 引率者・監督および外部指導者(コーチ)

- (1)参加生徒の引率者・監督は、原則として出場校の校長・教職員・部活動指導員とする。ただし、中体連主催大会については、大会要項に記載された通りとする。
- (2)三重県内の大会および中体連東海大会において外部指導者の大会参加を認める。外部指導者の大会参加については、別紙「外部指導者に関する規定」と「外部指導者登録について」に従うものとし、「外部指導者確認書(学校長承認書)」により登録された者に限る。ただし、中学校の教員は所属校以外の外部指導者(コーチ)としては認められない。また、複数の学校での外部指導者(コーチ)としての申請およびベンチ入りはできない。
- (3)ベンチ入りできる監督は1名とする。(監督または外部指導者)
- (4)個人戦において複数ペアが同時に試合にあたっているときは、当該中学校の校長・教職員・活動指導員または外部指導者(コーチ)がベンチに入ることを認める。ただし、試合途中に交代することはできない。外部指導者(コーチ)がベンチに入るときは、コーチゼッケンを左胸につけること。
- (5)団体戦において、2面に開いて試合を行う場合は両コートの間中央に位置し、3面に開く場合は真ん中のコートに位置し、アドバイスをする。(ベンチ入りできる監督は1名とする。)
- (6)日本ソフトテニス連盟発行のソフトテニスハンドブックを熟知していること。
- (7)マッチ中のコーチは、認められている時間内にベンチで行うこと。

3. 服装

【選手】

- (1)日本ソフトテニス連盟公認メーカーの製品を着用する。
- (2)ユニフォームの上は半袖ゲームシャツ、下は膝より上のパンツ、スカートを着用すること。
ただし、Tシャツはユニフォームとして着用できない。
*袖の長さは、一般に半袖と呼ばれる長さとし、フレンチスリーブ等の短いものは認めない。
袖をまくることはしない。
*シャツの丈は、裾を出してプレーしないことより、ショート丈のものは避けること。
*リボン・フリルなどの装飾付きは華美とみなし不可
- (3)アンダーシャツやスパッツの着用を認める。ただし色は単色で白か黒かベージュとする。
- (4)ソックスの長さについては、くるぶしが完全に隠れる長さとし、ハイソックスは認めない。
- (5)シューズは、テニスシューズを着用すること。靴や靴紐の左右を色違いにするのは不可。
- (6)鉢巻きには、特別な文言や記号を記入もしくは印刷し、使用してはいけない。帽子、サンバイザーもこれに準ずる。
- (7)帽子、サンバイザー、鉢巻きの他(ヘアバンド、バンダナ等)は使用しないこと。
- (8)他は、中学生のテニスの大会の服装としてふさわしいか否かを判断されたい。
- (9)ゼッケンは、背中に規定のゼッケンをつけること。
- (10)アクセサリー、装飾品等を身につけて試合に臨まないこと。
- (11)ウェアに、新たなプリントや加工をしてはいけない。
- (12)色つきのガットは認めるが単色とし、縦と横を違う色で張り分けたりすることは認めない。
- (13)サポーターは白・黒・ベージュ、テーピングは白・ベージュ、キネシオテープはベージュを認める

【監督】（外部指導者も同様）

- (1)ベンチ入りする時には、**スポーツウエア**を着用する。
- (2)シューズは、テニスシューズを着用すること。
- (3)ゼッケンは、左胸に監督ゼッケンをつける。（背中のゼッケンは不要）

4. 応援

- (1)団体戦においては、声をそろえての応援を認める。（個人戦においては、禁止する。）
- (2)サーブの構えに入ったら選手が集中できるように静かにする。
- (3)選手の連続的なプレイを妨げるタイミングでの応援を禁止する。
- (4)相手のミスに対しての拍手、ヤジは慎む。自分のチームのポイントに対しての拍手や声援を応援の基本とする。
- (5)ベンチから前へ出での応援を禁止する。
- (6)マナーよく応援すること。

5. 審判（生徒審判とする）

- (1)ジャッジペーパーの記入が正確にできるようにしておくこと。（審判名も記入する）
- (2)正審、副審の判定区分に従い、正しく判定しサインが出せるようにしておくこと。
- (3)正審は各ポイントごとにカウントのコールを大きな声で必ずすること。
- (4)審判はジャッジペーパーを選手に確認させ、勝者サインをもらう。

6. その他

- (1)ラケットの振動止めの使用を禁止する。
- (2)ベンチへの吸水器・水筒の持ち込みを認める。ただし、直接、缶・瓶類・ペットボトルを持ち込まないようにする（クーラーボックス・ホルダーに入ったペットボトルは認める）。
- (3)水分補給は、ベンチで行うこと。（試合会場によって指示する）
- (4)ベンチに入れるのは登録選手と監督または外部指導者1名のみとする。
- (5)サイドコーチ（コート外からのアドバイス）は固く禁止する。
- (6)大会要項及び競技規則に反した場合、選手並びにチームへの警告は、レフェリー及び本部から発することがある。
- (7)ベンチ入りしようとする外部指導者は、所定の手続きをとり、外部指導者確認書を携行すること。また、外部指導者がベンチ入りする場合、外部指導者に関する規定を遵守することともに、当該校教職員（監督）も必ずそのベンチの近くに待機すること。
- (8)団体戦においてベンチの控え選手（監督およびマッチ中の選手を除く）はフェンスの外で休憩することができる。コートへの出入りについては、他のコートの邪魔にならないよう気を付けること。試合開始および終了の挨拶は全員で行うこと。
- (9)試合中、相手に向かってのガッツポーズや過度のかけ声、審判の判定や相手プレーヤーを惑わせるような発声は慎むこと。
- (10)選手変更について
 - ① 個人戦で、1名が病気等で出場不可能となった場合には、該当校の登録していない選手との変更を認める。
 - ② 学校対抗戦で、構成人数内であれば変更・追加を認める。
 - ③ いずれの場合も、当日の受付時に変更選手の参加承諾書の提出とともに変更を届ける。

- ・ 1996年7月制定・2000年5月改訂・2001年5月改訂
- ・ 2002年5月改訂・2002年12月改訂
- ・ 2006年4月日本ソフトテニス連盟ハンドブック内の文言修正にともなう文言の修正
- ・ 2006年12月改訂
- ・ 2007年12月日本ソフトテニス連盟ハンドブックの訂正にともなう修正および追加
- ・ 2008年12月修正および追加
- ・ 2009年12月修正および追加
- ・ 2013年11月修正および追加
- ・ 2014年12月修正および追加
- ・ 2017年3月修正および追加
- ・ 2018年4月修正および追加
- ・ 2019年4月修正および追加
- ・ 2020年4月修正および追加
- ・ 2021年4月修正および追加